

意見の整理

- ・ 前回の審議会で頂きました主な意見・提案等を以下のとおり整理しました。
- ・ 構成の都合上、文章を分割・簡略・編集しています。
- ・ 審議会で頂いた意見、昨年の大学共同研究の成果、庁内検討等を踏まえて、実施方針(素案)を提案しています。

	主な意見	素案との関連
1	地域によってその特性差があるので、これが正解というものがないと思っている。	全
2	規模や子ども達の活気、先生方の学校運営の面などから考えると、小規模の学校は、なかなか難しいと考える。	全
3	クラス替えによって、いろいろな人と知り合うことは、子どもにとって大切なことだと思う。	全
4	自分自身が良かったと思える経験として、1つの中学校に3~4の小学校から子どもが集まることにより、多様な出会い、多様なコミュニケーションにつながる。	全
5	適正規模・適正配置には、コストだけではなく、理念や考え方も含めフラットに向き合っていくことが大事かと思う。	1 2
6	適正規模・適正配置について、ステイクホルダーの方々には説明をする時に、理念や考え方などを一つの切り口として前面に出すべきだと思う。加えて、進めていかなければいけない理由や財政的な問題などについても、資料を提示したり、説明したりしていくことで議論が円滑に進むかと思う。	1 2
7	千葉市は非常に広いので、小学校・中学校、大規模校・小規模校と大変差がある中で、同じような決め方というのは、大変難しいと感じており、準適正規模という考え方は必要。	3
8	通学距離として、小学校の4キロは非常に遠い。中学校の6kmも少し遠いと思う。	3
9	通学距離の小学校4キロ、中学校6キロというのは、少し遠くから通われる方がでてくると感じる。遠いということだけではなく、一日というスパンで考えると、子ども一人の負担と家庭が受ける負担も考えられる。	3
10	概ね4キロ以内、6キロ以内ということですが、これからは、スクールバスなどを考えていかなければいけないと思っている。また、概ね4キロ以内、6キロ以内ということについても検討の余地があるのではないかと。	3
11	通学の距離4キロとか6キロは文科省の手引きとして出されているものであって、個々の特殊な事情については、別途考える。まずは、大きな物差しを作って、提示していく提案であり原案に賛成である。	3
12	通学距離が増えてしまうお子さんに、どのようなサポートができるのかということも合わせて考えていけるとよい。	3
13	「子どもの教育環境の改善を中心に据えて、学校規模の適正化を優先に進めていく」といった方針は、よいと思う。	4
14	小・中学校の連続性や連携という点については十分に配慮する必要がある。	4
15	学区の広さなどから統合が難しいという地域もある。統合による利益を受けられない子ども達へのフォローについても考えていけたらよい。	4
16	小規模校のままで学校が存続される場合も想定しなければならない。	4

	主な意見	素案との関連
17	「規模」と「配置」のバランスは、各地の実情に合わせたものなので、一律にこういう形でやるというのは難しい。	4
18	多様な人との出会いを考えると、義務教育9年間の連続性についても、こだわることはないのかなと思うところもある。いろいろな所から子ども達が集まってきて、そこで出会いがある。こうした教育の機会もあってよいと思う。	4
19	いろいろな意見を聞くのもよいが、場合によっては、合意形成を図る上で、千葉市がある程度の方針を示し、リーダーシップをとっていくことも必要なのではないか。	5
20	保護者が中心になって意見を出すといっても、地域の方々が、そこで賛成していただかないとなかなかうまく進まない。その点をいかにクリアしていくのかということが課題だと思う。	5
21	千葉市では、各中学校区に地域運営委員会というものを設置し、地域の問題は地域で話し合っ解決する取組みが進んでいる中で、学校の適正規模・適正配置について、保護者と学校を優先するというのはなぜなのかと思う。	5
22	同一中学校区にある小学校や自治会でも、歴史が違うため考え方が違う。実際に統合するのは至難の業だと思う。	5
23	適正規模・適正配置の個別具体的な検討を始める際は、かなり早い段階からオープンにして開始してほしいと思う。そうしないと、地域における各方面との調整がつかないだろうと考えている。	5
24	誰でも学校に対する思い入れはありますが、その様な情意的な面や、一部の大きな声などに左右されるのではなく、数値的なものを出して納得していただくようにしていかないといけない。地域性に深く配慮し過ぎると根本的なものが揺らいでしまう。	5
25	いろいろな意見を吸い上げることは大切なことである。また、説明の中で千葉市として、将来像を提示して、こういう風に進めていくんだ、最終的に誰が何を決めるんだ、判断するのは市なんだ、責任の所在はどこにあるんだといったことを示していく事も大切なことである。	5
26	保護者・学校を起点とする進め方というところで、「保護者」と「学校」というカテゴリーの違うものが一緒に書いてある点が気になる。	5
27	個々の学校の適正規模・適正配置の議論に、どれだけ教育委員会や学校の先生が関わってくるかが一番の問題だと思う。地域の議論の中に入って「何がこの地域で問題なのか」「学校の先生目で見たら何が問題なのか」「どちらに統合した方がより子どもにベターか」といった具体的なプランを提示して、教育者として語ることも、すごく大事なことである。	5
28	現場の先生や教育委員会が、自分たちの考えを入れていくこと、心を持って言葉を伝えていくことが、地域を説得し納得させていく一番の手段だと思っている。	5

「主な意見」と「素案との関連」について

- ・ 全 = 実施方針(素案)の全体に関連する意見
- ・ 1~5 = 実施方針(素案)の項目(1~7)のうち、主に関連する意見